

## 地誌 第40回「日本地誌(2)－日本の人口－」

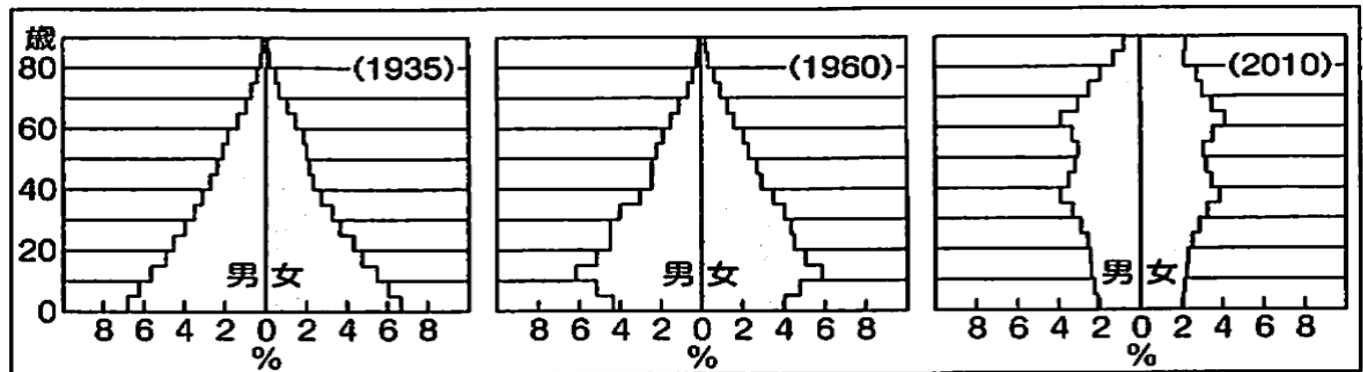
○今回のポイント

日本の人口は減少傾向。2012年は過去最大の28.4万人減少。  
合計特殊出生率も低く、2048年には1億人以下になる。

### 日本の人口転換

日本の人口…約① 1.26 億人(2012)

### ●日本の人口ピラミッドの変化



② 多産少死型

③ 少産少死型

○④ 少子高齢化

- ・出生率の低下が著しく⑤ 合計特殊出生率 (一人の女性が生涯に産む子供の平均数)は1.39(2010年)。
- ・医療の発達により平均寿命がのびる ⇒ 老年人口(65歳以上人口)の割合は23.1%

○日本の高齢化

- ・老年人口(65歳以上)の割合が⑦ 7% に達すると高齢化社会、⑧ 14% に達すると高齢社会。
- ・日本の高齢化は遅れて始まったが、高度経済成長以降、老年人口の割合が急激に上昇していることが特徴。

○日本の人口の特徴

- ・1947～1949年生まれ⑨ 第一次ベビーブーム …第二次大戦直後に出生率が増加。団塊の世代。
- ・1966年生まれ⑩ 丙午 (ひのえうま)…昔の日本は暦を十干と十二支を組み合わせて60年周期をあらわしていた(「壬申」の乱、「戊辰」戦争など)。この十干・十二支の組み合わせで「ひのえうま生まれの女性は男性を食い殺す」という迷信があったので、1966年は出生率が低かった。
- ・1971～1973年生まれ⑪ 第二次ベビーブーム …第一次ベビーブームに世代が子供を産んだ時期。

### 高度経済成長期以降の日本の人口移動

- (1)1955～⑫ 過疎・過密問題 …工業化が進んだ東京・大阪・名古屋を中心とする大都市圏へ人口集中が進む。地方の農村部では人口が激減。地方の中卒が集団で大都市圏に就職する集団就職の現象も起きた。
- (2)1965～1970；都市の拡大と都心部の衰退
  - ・⑬ ドーナツ化現象 …産業と人口が都市に集中⇒地価高騰・生活環境悪化⇒人口の郊外流出
  - ・⑭ スプロール現象 …地価が安い郊外で都市計画が未整備のまま開発が進む。
  - ・⑮ インナーシティ問題 …都心部の住環境の悪化。貧困層、高齢者、移民が取り残され治安の悪化。
- (3)1973～⑯ Uターン・Jターン 現象…高度経済成長の終焉⇒生まれ故郷、もしくは地方都市へ。
- (4)1990年代後半～⑰ 都心回帰現象 …都市の再開発、土地バブル終焉などにより都市に人口が再流入

都道府県別人口統計

人口増加

- ・ [18] 自然増加 ]…出生数から死亡数を引いたもの。
- ・ [19] 社会増加 ]…流入数から流出数を引いたもの。人口移動によって生じる。

○東京都

・ 1965年から1995年までマイナスであったが、それ以降はプラスの傾向  
 ⇒バブル経済の崩壊により地価が大幅に下落し、都心付近が [20] 再開発 ]されたことにより、高層マンションの建設が進む。

○福岡県

・ 九州地方の地方中心都市⇒ [21] 中心地機能 ]の役割を果たす。

周辺地域に雇用、商品の供給、教育や医療などの各種サービスを提供する機能が大きい。商業やサービス業などの第三次産業の雇用機会も多く、人口を吸収する力が大きくなる。

○老年人口

- ・ 割合が高い…過疎化が進む地方の県。 [22] 鳥取 ]・秋田・高知
- ・ 割合が低い…沖縄、愛知、埼玉、神奈川。特に [23] 沖縄 ]は合計特殊出生率が全国トップで、総人口に占める幼年人口(0~14歳)の割合が最も高くなっている。

**■昼夜間人口比率**

昼夜間人口比率とは、夜間人口(常住人口)100人あたりの昼間人口のことです。東京、大阪、名古屋などの中心都市には、昼間になると通勤や通学、百貨店などの商業施設での買物、大学病院への通院などのため、毎日多くの人々が周辺地域から流入してきます。その結果、昼間人口が夜間人口よりも多くなります。一方、大都市周辺の住宅都市は、昼間になると通勤・通学で大都市に出て行くため、昼間人口は夜間人口に比べて著しく少なくなります。

●東京大都市圏の昼夜間人口比率(2010年10月1日現在)

	昼間人口(千人)	夜間人口(千人)	昼夜人口比率
茨城県	2,873	2,969	96.8
栃木県	1,995	2,007	99.4
群馬県	2,005	2,008	99.8
埼玉県	6,352	7,195	88.3
千葉県	5,541	6,217	89.1
東京都	15,608	13,162	118.6
神奈川県	8,277	9,050	91.5

【日本国勢協会 2012/13】による

日本の外国人人口

○日本の外国人登録者数

1975年	2010年
朝鮮・韓国(64.7万人)	[24] 中国 ](68.7万人)
中国(4.8万人)	朝鮮・韓国(56.6万人)
アメリカ(2.2万人)	[25] ブラジル ](23.1万人)

- ①ブラジル人は90年代以降急激に増加。 [26] 出入国管理法の改正 ]により日系外国人(祖先が日本人で国籍は外国)については就労制限のない入国が認められるようになったため。
- ②朝鮮・韓国人は少子高齢化が進み、日本人に [27] 帰化 ]する人も増えたので減少。
- ③外国人登録者数は東京・愛知・大阪で多いが、製造業が発達している [28] 群馬 ]・静岡・岐阜でも多い。